

## 気仙沼圏域(宮城県) 総合水産基盤整備事業計画

### 1 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

・当圏域は、気仙沼市全域（合併した旧唐桑町、旧本吉町を含む）を対象としており、世界三大漁場の一つである三陸沖漁場を背景に、水産業は気仙沼市の主要産業となっている。東日本大震災（以下「震災」という。）の大津波でほとんどの漁業関連施設は甚大な被害を受け、漁業関係者等による早期復興に向けた取組を行っているが、圏域内の令和元年の陸揚量は震災前の水準の約8割までしか回復していない。

・当圏域には、沿海地区漁業協同組合として宮城県漁業協同組合（以下、宮城県漁協）（気仙沼総合支所、気仙沼市内の各支所）が所在している他、業種別漁業協同組合として、気仙沼漁業協同組合、気仙沼遠洋漁業協同組合が所在しており、これら2つの漁協の合併が予てからの課題となっている。

##### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況（令和元年港勢）

・当圏域の主要漁業種類は、かつお一本釣（近海主体）、大中型まき網（1 そうまき：その他）、まぐろはえ縄（近海主体）、大中型まき網（1 そうまき：かつお・まぐろ）、さんま棒受け網の海面漁業を中心としており、これらは圏域全体の陸揚量の7割を占める（海面漁業全漁業種は圏域全体の陸揚量の9割）。また、ワカメ、カキ、ホタテ等の海面養殖業も営まれており、圏域全体の陸揚量の1割を占める。

・主要魚種は、カツオ類 21,500 t、サバ類 10,200 t、サメ類 9,700 t、マイワシ 8,200 t、サンマ 5,400 tとなっている。特に、カツオの生鮮での水揚量は全国一のほか、サメでも全国一の水揚量を誇っている。

・磯根資源の減少対策として、藻場の造成や、ウニの駆除・身入り改善などの磯焼け対策を始めとして、アワビの種苗放流・資源管理も実施しており、今後は新たな磯根資源としてナマコへの期待も高まっている。

##### ③ 水産物の流通・加工の状況

・圏域内の産地市場である地方卸売市場気仙沼市魚市場が、流通拠点漁港である気仙沼漁港（特定第3種漁港）に所在しており、海面漁業による水産物は、すべてここを経由する流通形態となっている。海面養殖業による主な水産物であるワカメは、波路上漁港（第2種漁港）を集約拠点とする流通形態となっている。

・当圏域の代表的な加工品は、サンマ、カツオの冷凍加工品の他、中華料理の高級食材として有名なふかひれ生産量は全国一である。

・当圏域の輸出実績や具体的な取組は、民間企業により、加工原料としての東南アジアへの輸出をはじめとして、加工品の輸出が東～東南アジア及び米国向けに行われている。そのほか、自治体と宮城県漁協の協働で輸出相手国に対する商談会も行っている。ホヤ等の輸入禁止国の動向等も踏まえ、東～東南アジア向けを念頭に輸出拡大を目指す。

##### ④ 養殖業の状況

・当圏域の主要養殖漁業種類は主にわかめ類養殖であり、令和元年の陸揚量は 3,600 t と

なっている他、かき養殖、ほたてがい養殖、こんぶ養殖、ほや類養殖漁業が行われている。

- ・海面養殖業による主な水産物であるワカメは、波路上漁港（第2種漁港）を集約拠点としている他、カキは石巻圏域の渡波を集約拠点とし、ホタテ、コンブ、ホヤは支所毎に集約する流通形態となっている。

- ・いずれの漁業種も養殖漁場は各漁港の沖合にあり、ワカメの種苗は自己採取（天然・人工タンク）や、漁協または業者を通じて塩釜地区や徳島県の鳴門から調達しており、基本的に陸揚げされた漁港で加工され出荷される。カキは松島湾や石巻湾で採取された天然採苗を、漁協を通じて調達しており、宿舞根と波路上、鮪立、大島、松岩に加工施設を有している。ホタテは天然の種苗を自己採苗しており、各漁港で陸揚げされている。コンブは北海道や岩手から種苗を調達しており、各漁港で陸揚げし加工まで行っている。ホヤは人工タンクによる自己採苗の他、漁協を通じて寄磯、谷川、女川方面から調達しており、各漁港で陸揚げされている。

#### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

- ・令和元年度港勢調査による漁業経営体数は745体、正組合員数は640人と、それぞれ震災前の約6割、3割と減少傾向となっている。

- ・被災した漁村の多くは、漁港背後の高台に造成された住宅地に集団移転し、生活基盤はおおむね整ったが、震災により漁業の再開を断念する漁業者も多いため、漁村地域における漁業者を中心とする地域コミュニティの崩壊が危惧されており、少子高齢化による担い手不足が課題となっていることから、新規就業者や後継者の育成を図り、漁村地域の活性化を図る必要がある。また、漁業者の高齢化や労働力不足など、地区ごとに異なる状況に対して、実情に応じた対応策が必要となっている。

#### ⑥ 水産業の発展のための取組

- ・冷凍品が主な流通形態となっているメカジキを生鮮品として流通させ、気仙沼のメカジキのブランド化に向けて品質向上や情報発信に取り組んでいる。また、フカヒレとして気仙沼ブランドが確立しているサメについて、高鮮度化による正肉部の付加価値向上に取り組んでいる。

- ・漁船漁業のMSC（持続可能な漁業で獲られた認証水産物）やASC（環境に配慮した養殖生産）、MEL認証（水産物エコラベル制度）の取得、水産加工業者のHACCP取得を促進し、海外への輸出を視野に入れ国際競争力の強化を図る取り組みを行っている。現在、民間企業によるタイセイヨウクロマグロはえ縄漁業がMSC認証を取得している。

- ・磯焼け対策で駆除したウニを陸上もしくは海上で給餌を行い、身入りを改善させる蓄養試験の取り組みが広がっている。

- ・気仙沼市魚市場では、HACCPへの対応や、各種ICT（電子入札）の導入、水産情報の発信、クッキングスタジオの開設等の各種取り組みを実施している。

- ・漁業法の改正により、漁協の協力の下で地元大手の民間業者によるサーモン養殖への新規参入が期待されている。

#### ⑦ 水産基盤整備に関する課題

- ・近年漁船の大型化が進んでおり、背後地の水産加工業者に対する原材料の安定供給を行うことにより、海外への輸出を視野に入れた国際競争力の強化を図るため、漁船の大型化

に対応した岸壁整備が求められている。

- ・また、利用漁船の増加や、漁船の大型化に伴い準備・休けい用係船岸の不足が恒常化しており、沖合各船の気仙沼市魚市場への水揚げの敬遠や関連産業への影響も懸念されることから、準備・休けい用係船岸の整備が求められている。

- ・震災により航路及び泊地の海底地形が変わったことにより、航路及び泊地の静穏度が悪化していることや、海水温の上昇等の気候変動による沖波諸元の見直しによる設計波高の増大等から、外郭施設の整備が必要となっている。

- ・当圏域の各漁港は、小型漁船の船揚場で台車が斜路のブロックの隙間や段差等で、漁船の船揚げに苦慮しており、危険な状況で作業を行っている。少子高齢化や漁業就業者数の減少が進んでいることから、省力化・軽労化・就労環境改善対策が必要となっている。

- ・当圏域では、東日本大震災において、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、干潮時の潮位変動が大きく、転落事故等も発生している。また、漁業活動中に災害により漁業者の転落が懸念されており、海上作業から速やかに陸上に避難できる施設が不足していることから避難施設の整備が必要となっている。

- ・震災により離職する漁業者や高齢化、重労働が敬遠されるなど、漁業に従事する人や漁船数は減少傾向にあり、漁港の施設や用地に余裕が生まれている。各漁港の生産力を十分発揮させ、安定した漁業生産等を行うために、それぞれの機能の分担・有効活用を図る必要がある。

- ・漁港施設の老朽化が進んでおり、維持管理や点検結果にかかる情報は今後も増加していくことから、漁港漁場施設の適切な管理とともに、機能保全の効率化が求められる。

#### ⑧ 将来的な漁港機能の集約化

##### ・集出荷機能の集約

大沢（唐桑）漁港に館漁港ほか 3 漁港（岩井沢漁港、載鈎漁港、小田浜漁港）の陸揚げ及び集出荷機能を集約化させる。また養殖漁業者と漁船漁業者との連携を図り、作業の効率化を図る。

石浜（唐桑）漁港に馬場（唐桑）漁港の陸揚げ及び集出荷機能を集約させる。

滝浜（唐桑）漁港に笹浜漁港、津本漁港のうに・あわびの陸揚げ及び集出荷機能を集約化させる。

蔵内漁港に今朝磯漁港の陸揚げ及び集出荷機能を集約化し、漁業生産活動の効率化を図る。

##### ・増養殖・蓄養強化機能の集約

大沢（唐桑）漁港への陸揚げ及び集出荷機能集約に伴い、館漁港の港内を増養殖場として有効活用する。

石浜（唐桑）漁港への陸揚げ及び集出荷機能集約に伴い、馬場（唐桑）漁港の港内を増養殖場として有効活用する。

滝浜（唐桑）漁港への陸揚げ及び集出荷機能集約に伴い、笹浜漁港の港内を増養殖場として有効活用する。

蔵内漁港への陸揚げ及び集出荷機能集約に伴い、今朝磯漁港の港内を増養殖場として有効活用する。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；地方卸売市場気仙沼市魚市場が、9割以上の水産物を集約する産地市場となっている。
② 圏域範囲	大沢（唐桑）漁港 ～蔵内漁港 の気仙沼市全域	設定理由；全国の遠洋及び沖合漁業の基地である気仙沼漁港が、旧唐桑町、旧本吉町の合併により、水産物集約の中心となっている。なお、範囲設定は前回計画どおりで、漁業関係者ヒアリングで問題のないことを確認している。
③ 流通拠点漁港	気仙沼漁港 特定第3種漁港	設定理由；圏域の中心となる産地市場、地方卸売市場気仙沼市魚市場が所在し、周辺に水産関連産業が集約している。 属地陸揚量 65,600t（圏域の約9割） 属地陸揚金額 138.0億万円（圏域の約9割）
④ 生産拠点漁港		設定理由；
	大沢（唐桑）	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	石浜（唐桑）	生産地として中核的な役割を担っている。
	宿舞根	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	長崎	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	要害	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	大谷	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	蔵内	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	小鯖	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	鮪立	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	松岩	一定の港勢を有し、生産地として中核

		的な役割を担っている。
	波路上	養殖業の集約拠点となるなど、圏域内の中核的な役割を担っている。
	浦の浜	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	日門	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
⑤ 輸出拠点漁港		設定理由；
	宿舞根	圏域内の中核的な生産拠点漁港であり、栽培養殖魚種を中心に海外輸出の増大を目指す。
	波路上	圏域内の中核的な生産拠点漁港であり、栽培養殖魚種を中心に海外輸出の増大を目指す。
	気仙沼	圏域内の流通拠点漁港であり、既に水産加工品を中心に海外輸出が行われている。

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	70,899
圏域の総漁港数	38
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1

圏域の登録漁船隻数(隻)	2,106
圏域内での輸出取扱量(トン)	不明

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	唐桑(ホタテガイ) ※生産量 500t 以上
	宿舞根(カキ) ※生産量 500t 以上
	唐桑、階上、大谷本吉(ワカメ) ※生産量 500t 以上
対象魚種	ホタテガイ、カキ、ワカメ
魚種別生産量(トン)	唐桑(ホタテガイ) : 676t
	宿舞根(カキ) : 1,299t
	唐桑 : 816t、階上 : 2,617t、大谷本吉 : 635t (ワカメ)
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	唐桑(ホタテガイ) : 195 百万円
	宿舞根(カキ) : 200 百万円
	唐桑 : 131 百万円、階上 : 519 百万円、大谷本吉 : 120 百万円 (ワカメ)

## 2 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・漁港の集出荷機能等の再編・集約と広域浜プランに基づく地域の取組との連携として、各漁港の生産力を十分発揮させ、安定した漁業生産等を行うために、それぞれの機能の分担・有効活用を図る。
- 大沢（唐桑）漁港に館漁港ほか 3 漁港（岩井沢漁港、載鈎漁港、小田浜漁港）の陸揚げ及び集出荷機能を集約する。また、養殖漁業者と漁船漁業者との連携を図り、作業の効率化を図る。
- 石浜（唐桑）漁港に馬場（唐桑）漁港の陸揚げ及び集出荷機能を集約する。
- 滝浜（唐桑）漁港にウニ・アワビの陸揚げ及び集出荷機能を集約する。
- 蔵内漁港に今朝磯漁港の陸揚げ及び集出荷機能を集約し、漁業生産活動の効率化を図る。
- ・高度衛生管理型荷さばき所の更なる拡大と冷凍冷蔵施設、加工・流通施設などの流通機能の強化として、流通拠点である気仙沼漁港では太陽光発電システムによる再生可能エネルギーを導入した高度衛生管理型荷さばき所（魚市場）を平成 30 年度に整備済みであり、安全と安心かつ高品質な水産物を提供することで、ブランド力を向上させると共に、輸出の拡大を図る。
- ・漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増深と漁船の大型化情報の事前共有体制の構築として、流通拠点漁港で不足している準備・休けい用岸壁や大水深岸壁を整備し、輸出の促進に向けた国際競争力を確保するため、産地における生産の効率化を図る。
- ・輸出促進の取組をハード・ソフト両面から推進していくにあたり、気仙沼では気仙沼冷凍水産加工業協同組合による HACCP に対応した冷凍冷蔵施設や、民間の加工場を有しており、引き続き流通の効率化、鮮度保持の強化を図る。
- ・漁獲物等に関する情報処理の迅速化や省力化等を図る市場への ICT の導入としては、気仙沼市魚市場で、IC カードによる入場管理や、コンピューター入札業務システムの導入によるタブレット端末による電子入札など、産地市場の電子化による市場取引業務の省力化を図っている。

#### ②養殖生産拠点の形成

- ・圏域計画において「養殖生産拠点」を新たに設定する。
- ・養殖業の生産性・収益性向上のため、種苗生産施設から加工・流通施設等の一体的な整備と施設能力の強化として、ワカメの養殖生産拠点地域として唐桑地域に属し、更に陸揚・集出荷機能の集約拠点となる石浜（唐桑）漁港の係船岸利用・土地利用計画の適正化を図る。また養殖ワカメの専用岸壁・作業用地に荷役設備・一次加工設備等を集約し、作業の効率化及び労働作業環境の改善を図る。
- ・生産量拡大の目標値として、県の水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）（令和 3 年度～令和 12 年度）で設定された養殖品目ごとの目標値の、現状値からの増加割合より養殖生産拠点ごとの目標値を定め、今後新たな整備を検討しつつ目標達成を目指す。

区分	産出額	産出額目標値 [百万円]		生産量	生産量目標値 [t]		産出額増加割合		生産量増加割合	
	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	R07	R12	R07	R12
カキ	200	218	237	1,299	1541	1,782	1.09	1.18	1.19	1.37
ホタテガイ	195	204	219	676	760	845	1.05	1.12	1.12	1.25
ワカメ	770	790	790	4,068	4,452	4,836	1.03	1.03	1.09	1.19

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・藻場・干潟ビジョンに基づいた食害生物の駆除等のソフト対策と海藻が着生しやすい基質設置や干潟の造成等のハード対策として、令和2年に策定された宮城県藻場ビジョンを踏まえ、大島地区でのハード対策として着定基質設置（藻場）、また、大島地区、唐桑地区、階上地区での食害生物駆除や播種・移植、栄養塩供給などのソフト対策、モニタリングの強化を実施する。

②災害リスクへの対応力強化

- ・大規模地震・津波の想定や沖波などの設計条件の点検・見直し結果を踏まえた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化、浸水対策として、流通拠点漁港において耐震強化岸壁の整備を実施する。
- ・流通拠点漁港である気仙沼漁港において、水産業の早期再開のため、水産物の生産及び流通に関する事業継続計画（BCP）の策定・運用を推進する。
- ・ICTを活用した被災・復旧状況の情報共有として、気仙沼漁港では災害情報システム電子掲示板による災害状況の共有により、被災後の地域水産業の早期再開を可能とする対応力の強化を図っている。
- ・ライフサイクルコストの低減を図る適切な機能保全計画の見直しとして、LCC平準化による最適化を行い、漁港または圏域・県全体のストック効果を発揮させるための計画的な取り組みを実施する。

(3) 「<sup>うみぎょう</sup>海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「<sup>うみぎょう</sup>海業」による漁村の活性化

- ・水産業、漁港は気仙沼にとって重要な観光資源であり、平成31年には大島大橋が開通し、離島であった大島の利便性が向上、令和3年には気仙沼湾横断橋である「かなえおおはし」が開通したことに加え、近年、メディアに取り上げられたこともあり認知度は更に向上している。また、震災後に移住した若手による漁業・漁村に関する情報発信や地域づくりに積極的に取り組んでいる。
- ・漁港と地域資源を生かした増養殖や直販・交流など「海業」等の振興として、漁港機能の集約による港内の泊地の有効活用を推進する。

→館漁港、馬場（唐桑）漁港、笹浜漁港、今朝磯漁港で漁港機能の集約による港内の泊地を有効活用

→磯焼け対策で採捕したウニを含む、身入りの悪いウニの餌料に養殖ワカメの生産過程で発生した規格外品（切れ端等）を有効活用したウニの蓄養殖・肥育養殖場として港内泊地を有効活用（※館漁港、今朝磯漁港は蓄養魚種にアワビを含む）

- ・津本漁港で陸揚げされたワカメ切れ端等を増養殖の餌料として活用する。
- ・圏域内6漁港（小鯖、鮪立、松岩、波路上、浦の浜、日門）において、プレジャーボー

ト係留区域を指定しており、宮城県漁協が指定管理者となり「海業」等の振興を図っている。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・越波防止や防風施設整備等の安全対策の推進として、石浜（唐桑）漁港で港内静穏度悪化対策として外郭施設を整備する。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
気仙沼	輸出促進 <sup>※1</sup>	流通基盤	気仙沼	特定第3種	○
大沢（唐桑）	流通機能強化 <sup>※2</sup>	基盤整備	大沢（唐桑）	第1種	
石浜（唐桑）	流通機能強化 <sup>※2</sup>	基盤整備	石浜（唐桑）	第1種	
滝浜（唐桑）	流通機能強化 <sup>※2</sup>	基盤整備	滝浜（唐桑）	第1種	
蔵内	流通機能強化 <sup>※2</sup>	基盤整備	蔵内	第1種	

※1 流通拠点漁港で不足している準備・休けい用岸壁や大水深岸壁を整備

※2 集出荷機能の集約による拠点漁港の整備

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
石浜（唐桑）	養殖拠点 <sup>※3</sup>	基盤整備	石浜（唐桑）	第1種	

※3 養殖ワカメの陸揚・集出荷機能の集約拠点による荷役設備・一次加工設備等の整備

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
大島	藻場・干潟 <sup>※4</sup>	水産環境（一般）
大島	藻場・干潟 <sup>※5</sup>	多面的機能
唐桑	藻場・干潟 <sup>※5</sup>	多面的機能
階上	藻場・干潟 <sup>※5</sup>	多面的機能

※4 ハード対策として着定基質設置（藻場）

※5 食害生物駆除や播種・移植、栄養塩供給などのソフト対策、モニタリングの強化

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
気仙沼	安全・安心 <sup>※6</sup>	流通基盤	気仙沼	特定第3種	○
気仙沼	早期再開 <sup>※7</sup>	流通基盤	気仙沼	特定第3種	○
岩井沢	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	岩井沢	第1種	



載鈎	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	載鈎	第1種	
小田浜	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	小田浜	第1種	
馬場（唐桑）	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	馬場（唐桑）	第1種	
鶴ヶ浦	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	鶴ヶ浦	第1種	
磯草	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	磯草	第1種	
横沼	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	横沼	第1種	
要害	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	要害	第1種	
赤牛	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	赤牛	第1種	
小鯖	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	小鯖	第2種	
鮪立	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	鮪立	第2種	
松岩	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	松岩	第2種	
波路上	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	波路上	第2種	
浦の浜	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	浦の浜	第2種	
日門	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	日門	第2種	
気仙沼	予防保全 <sup>※8</sup>	機能保全	気仙沼	特定第3種	○

※6 耐震強化岸壁の整備

※7 水産物の生産及び流通に関する事業継続計画（BCP）の策定・運用

※8 予防保全型の維持管理の実施

(3) 「<sup>うみぎょう</sup>海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「<sup>うみぎょう</sup>海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
館	活用促進 <sup>※9</sup>	基盤整備	館	第1種	
馬場（唐桑）	活用促進 <sup>※9</sup>	基盤整備	馬場（唐桑）	第1種	
笹浜	活用促進 <sup>※9</sup>	基盤整備	笹浜	第1種	
今朝磯	活用促進 <sup>※9</sup>	基盤整備	今朝磯	第1種	

※9 港内泊地を有効活用したウニ等の蓄養殖・肥育養殖の実施

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
石浜（唐桑）	就労環境 <sup>※10</sup>	機能強化	石浜（唐桑）	第1種	

※10 港内静穏度悪化対策として外郭施設を整備

#### 4 環境への配慮事項

- ・当圏域は、三陸復興国立公園と県立自然公園気仙沼の指定地域にある。リアス式海岸特有の入り組んだ海岸線が特徴であり、震災からの復興と被害の伝承を目的として、現在の指定状況となっている。
- ・圏域内において、藻場や希少生物の問題は指摘されていないが、事業着手に際して環境調査を行い、該当の生物が確認された場合には必要な対策を講じるものとする。
- ・当圏域の流通拠点である気仙沼漁港の気仙沼市魚市場では、太陽光発電システムによる再生可能エネルギーを導入した高度衛生管理型荷さばき所として整備されており、CO<sub>2</sub>の排出量の削減に寄与している。

#### 5 水産物流通圏域図

#### 6 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

#### 7 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

#### 8 その他参考となる資料



# 宮城県 水産物流通圏域図 (気仙沼圏域)

## 気仙沼圏域 流通拠点型

流通拠点：気仙沼漁港 (特定第3種)

圏域総陸揚量：70,899t

圏域総陸揚金額：155.9億円

漁港：38港、港湾2港

<機能集約>

集出荷機能 (5年以内)

館、岩井沢、載駒、小田浜 → 大沢 (唐桑)

馬場 (唐桑) → 石浜 (唐桑)

今朝磯 → 蔵内

<養殖生産>

圏域養殖総生産量：5,222t

圏域海面養殖業総生産額：16.1億円

主要養殖魚種：ワカメ

●：流通拠点漁港 (うち輸出发点港) (輸)

◎：生産拠点漁港 (うち輸出发点港) (輸)

○：一般漁港

■：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)

☆：産地市場

☆：漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網、底引き等)、採獲、採貝、魚獲の場合は示す)

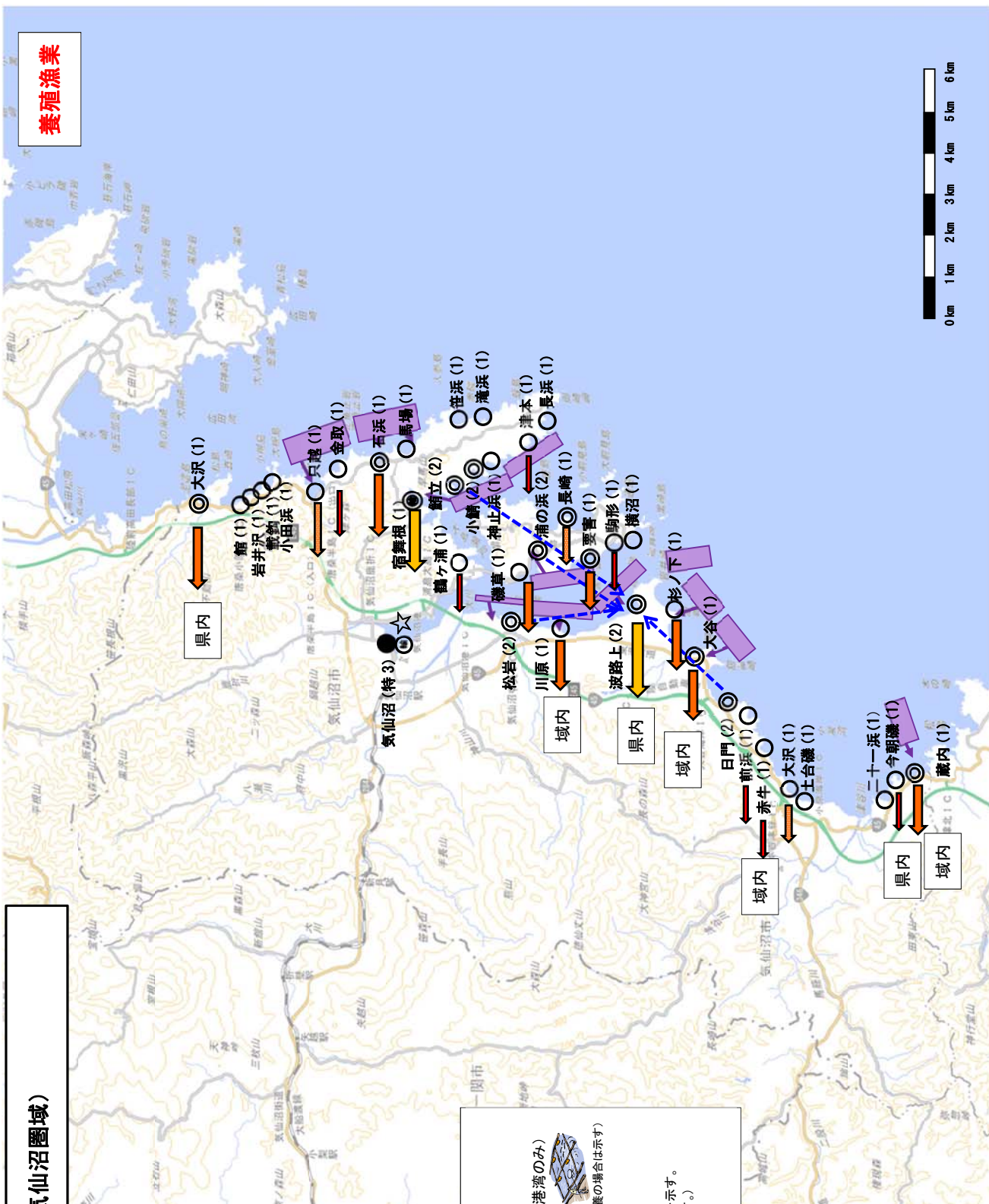
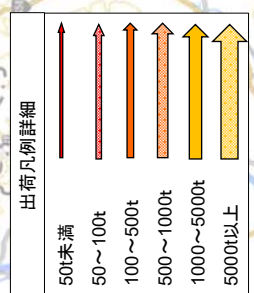
→ (実線)：水産物集約 (漁船陸揚げ)

→ (点線)：水産物集約 (陸送)

→ (黄線)：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を示す。)

→ (紫線)：養殖に係る水産物の流れ

→ (赤線)：養殖漁場



養殖漁業

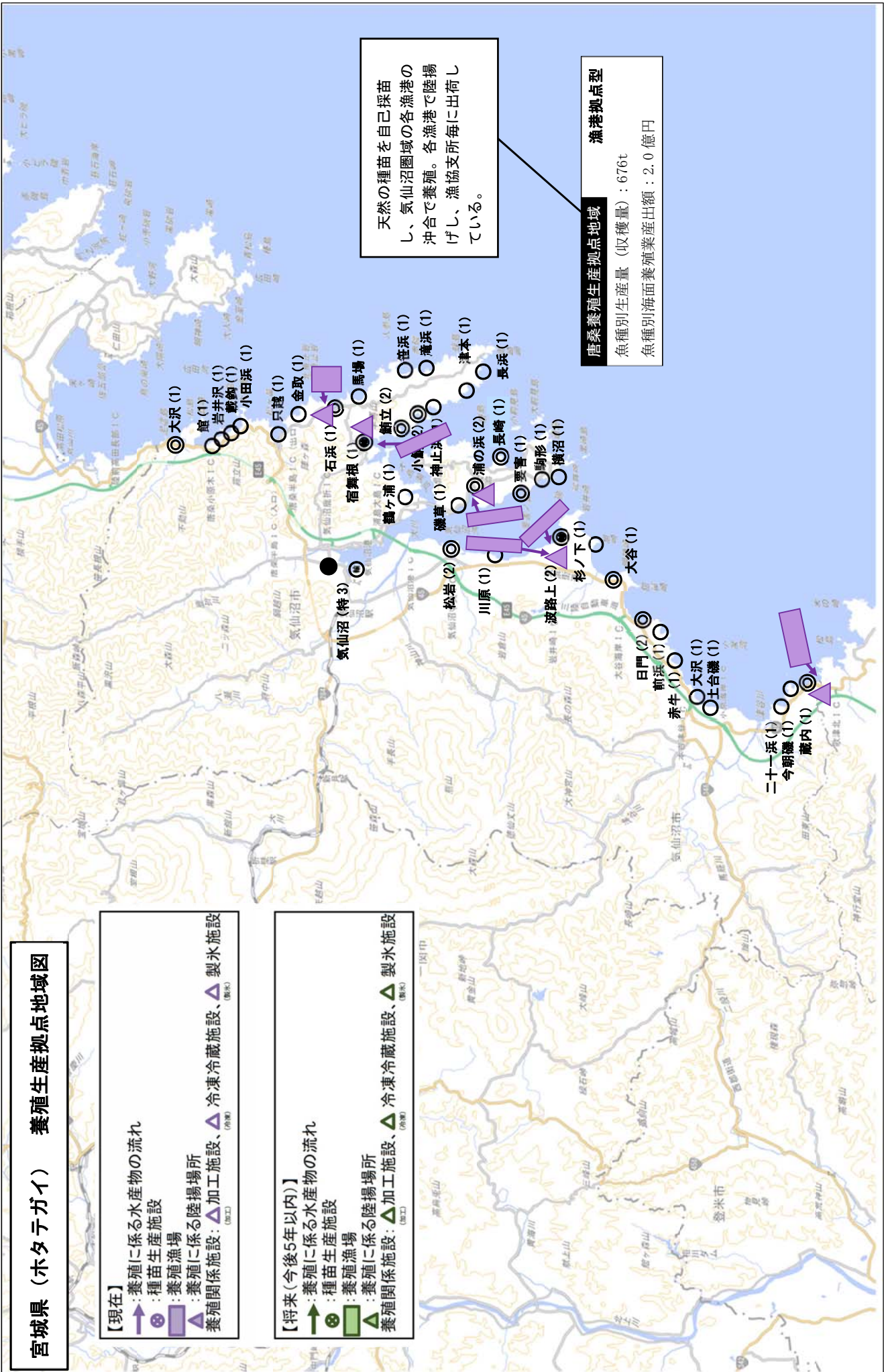
# 宮城県（ホタテガイ） 養殖生産拠点地域図

**【現在】**  
 ↑: 養殖に係る水産物の流れ  
 ⊕: 種苗生産施設  
 ⊖: 養殖漁場  
 △: 養殖に係る陸揚場所  
 ▲: 養殖関係施設: △加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製水施設 (備考)

**【将来(今後5年以内)】**  
 ↑: 養殖に係る水産物の流れ  
 ⊕: 種苗生産施設  
 ⊖: 養殖漁場  
 △: 養殖に係る陸揚場所  
 ▲: 養殖関係施設: △加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製水施設 (備考)

天然の種苗を自己採苗し、気仙沼圏域の各漁港の沖合で養殖。各漁港で陸揚げし、漁協支所毎に出荷している。

**漁港拠点型**  
 唐桑養殖生産拠点地域  
 魚種別生産量(収穫量): 676t  
 魚種別海面養殖業産出額: 2.0億円



# 宮城県（力キ類） 養殖生産拠点地域図

【現在】

- 養殖に係る水産物の流れ
- 種苗生産施設
- 養殖漁場
- 養殖に係る陸揚場所
- 養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

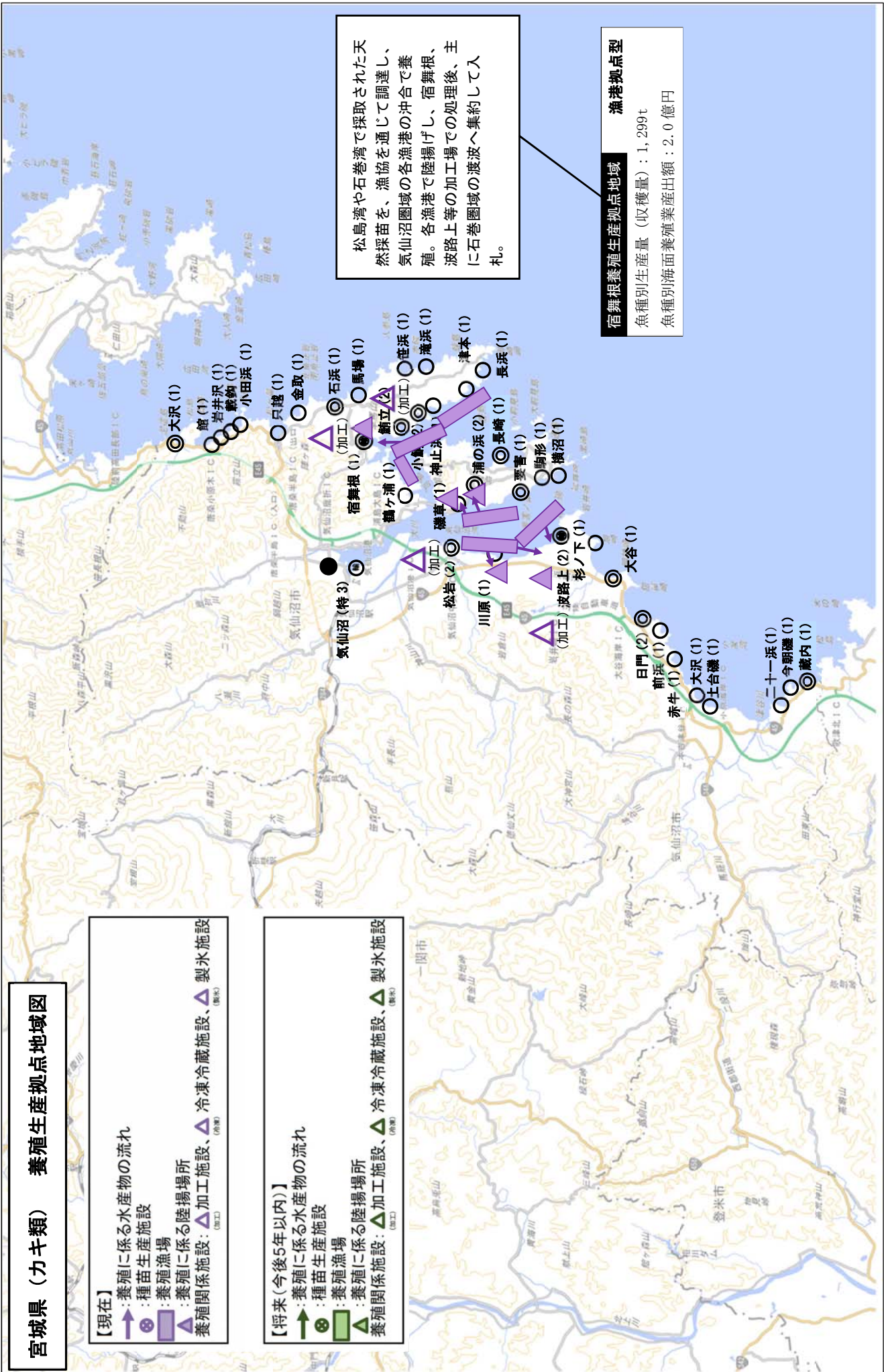
【将来（今後5年以内）】

- 養殖に係る水産物の流れ
- 種苗生産施設
- 養殖漁場
- 養殖に係る陸揚場所
- 養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

松島湾や石巻湾で採取された天然採苗を、漁協を通じて調達し、気仙沼地域の各漁港の沖合で養殖。各漁港で陸揚げし、宿舞根、波路上等の加工場での処理後、主に石巻圏域の渡波へ集約して入札。

**宿舞根養殖生産拠点地域 漁港拠点型**

魚種別生産量（収穫量）：1,299t  
 魚種別海面養殖業産出額：2.0億円



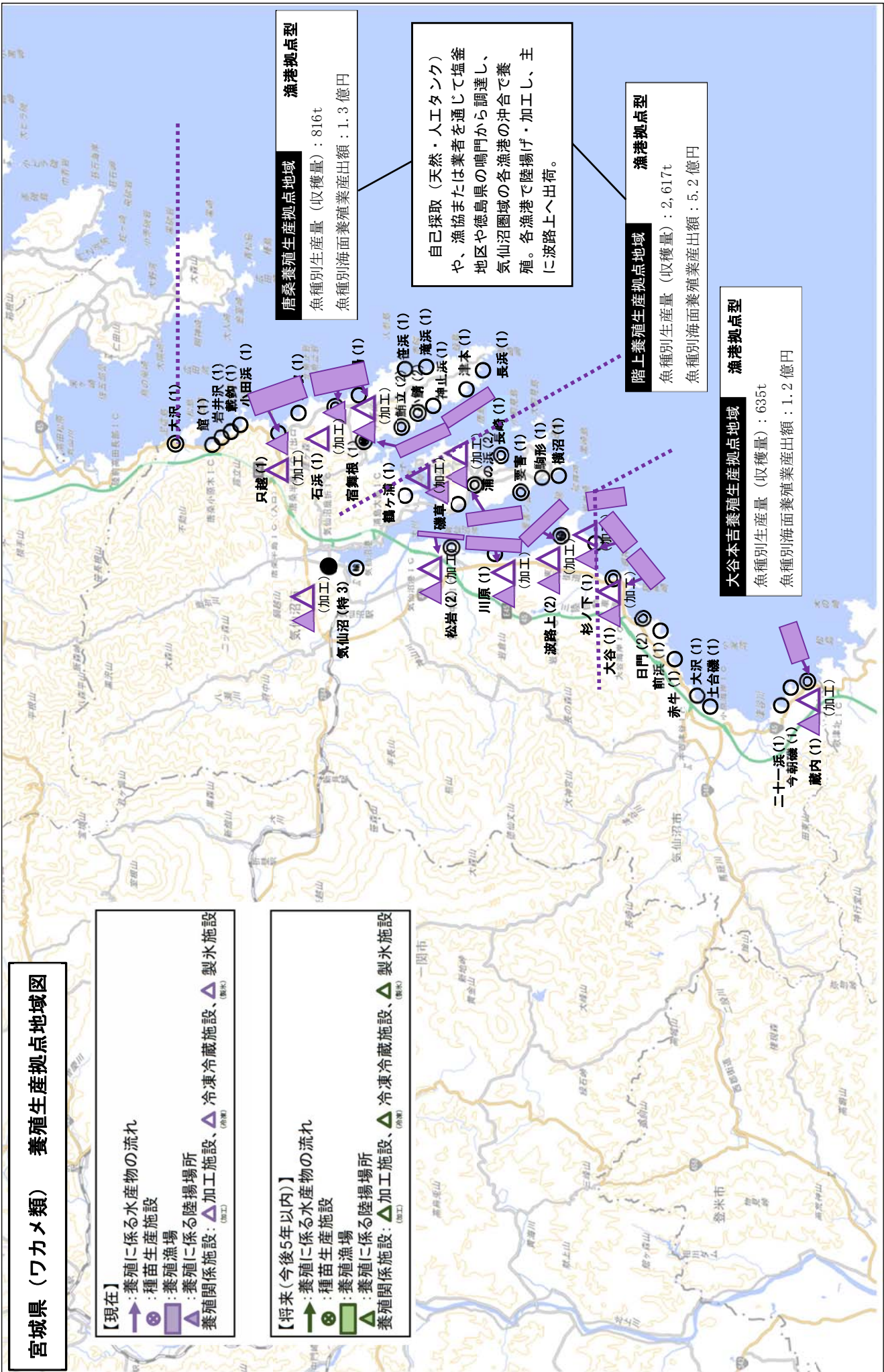
# 宮城県（ワカメ類） 養殖生産拠点地域図

【現在】

- ↑: 養殖に係る水産物の流れ
- ⊕: 種苗生産施設
- ⊖: 養殖漁場
- △: 養殖に係る陸揚場所
- ▽: 養殖関係施設: △加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

【将来（今後5年以内）】

- ↑: 養殖に係る水産物の流れ
- ⊕: 種苗生産施設
- ⊖: 養殖漁場
- △: 養殖に係る陸揚場所
- ▽: 養殖関係施設: △加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設



**唐桑養殖生産拠点地域** 漁港拠点型

魚種別生産量（収穫量）：816t  
 魚種別海面養殖業産出額：1.3億円

自己採取（天然・人工タンク）や、漁協または業者を通じて塩釜地区や徳島県の鳴門から調達し、気仙沼地域の各漁港の沖合で養殖。各漁港で陸揚げ・加工し、主に波路上へ出荷。

**階上養殖生産拠点地域** 漁港拠点型

魚種別生産量（収穫量）：2,617t  
 魚種別海面養殖業産出額：5.2億円

**大谷本吉養殖生産拠点地域** 漁港拠点型

魚種別生産量（収穫量）：635t  
 魚種別海面養殖業産出額：1.2億円

# 宮城県 集出荷機能連携図 (気仙沼圏域)

## 気仙沼圏域 流通拠点型

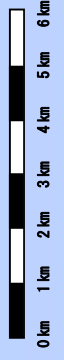
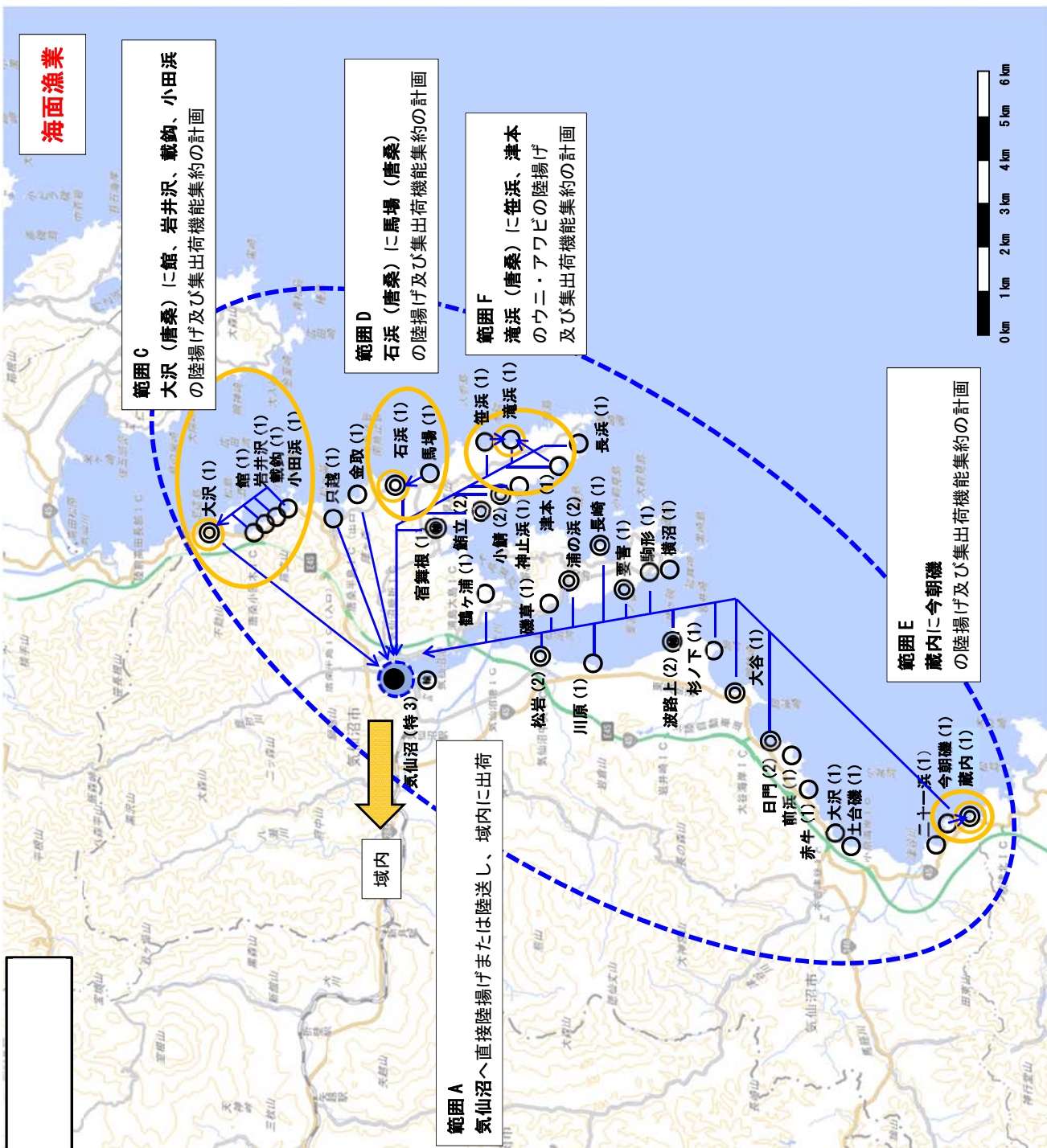
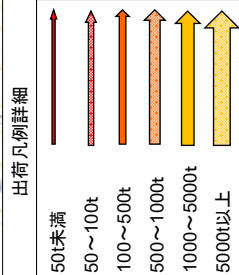
圏域総陸揚量：70,899t

圏域総陸揚金額：155.9億円

漁港：38

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網・底引き等)、採漁、採貝、漁業の場合は示す)
- ★：水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ★：水産物集約 (陸送)
- 出：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を示す。)

- ①集・出荷機能
    - ：現状の連携範囲
    - ：現状の中心的な漁港
  - ②準備機能
    - ：現状の連携範囲
    - ：現状の機能を有する漁港
  - ③増養殖・畜養強化機能
    - ：現状の連携範囲
    - ：現状の中心的な漁港
  - ④漁業振興機能
    - ：現状の連携範囲
    - ：現状の中心的な漁港
  - ⑤防災・減災、避難機能
    - ：現状の連携範囲
    - ：現状の中心的な漁港
- (※全機能共通) 将来的な連携範囲  
 ●：5年以内を目途に実施する連携範囲  
 ○：5年以内を目途に実施する中心的な漁港  
 ●：10年以内を目途に実施する連携範囲  
 ○：10年以内を目途に実施する中心的な漁港





# 宮城県 集出荷機能連携図 (気仙沼圏域)

## 気仙沼圏域 流通拠点型

圏域総陸揚量：70,899t

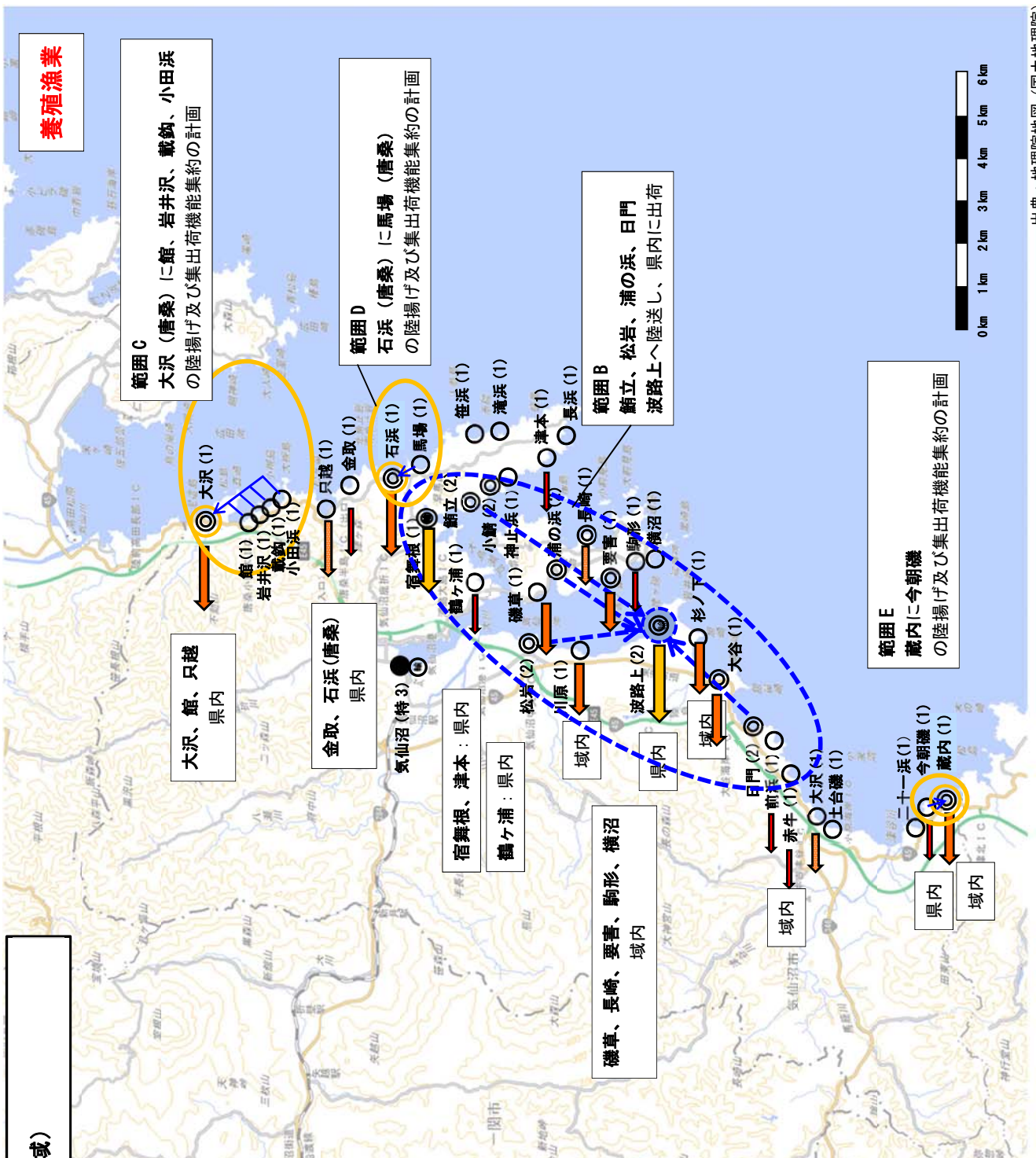
圏域総陸揚金額：155.9 億円

漁港：38

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網、底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)
- 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- 水産物集約 (陸送)
- 加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)

- ①集・出荷機能
    - 現状の連携範囲
    - 現状の機能を有する漁港
  - ②準備機能
    - 現状の連携範囲
    - 現状の機能を有する漁港
  - ③増養殖・蓄養強化機能
    - 現状の連携範囲
    - 現状の中心的な漁港
  - ④海業振興機能
    - 現状の連携範囲
    - 現状の中心的な漁港
  - ⑤防災・減災、避難機能
    - 現状の連携範囲
    - 現状の中心的な漁港
- (※全機能共通) 将来的な連携範囲
- 5年以内を目標に実施する連携範囲
  - 5年以内を目標に実施する中心的な漁港
  - 10年以内を目標に実施する連携範囲
  - 10年以内を目標に実施する中心的な漁港

- ### 出荷凡例詳細
- 50t未満
  - 50~100t
  - 100~500t
  - 500~1000t
  - 1000~5000t
  - 5000t以上



# 宮城県 増養殖・蓄養強化機能連携図 (気仙沼圏域)

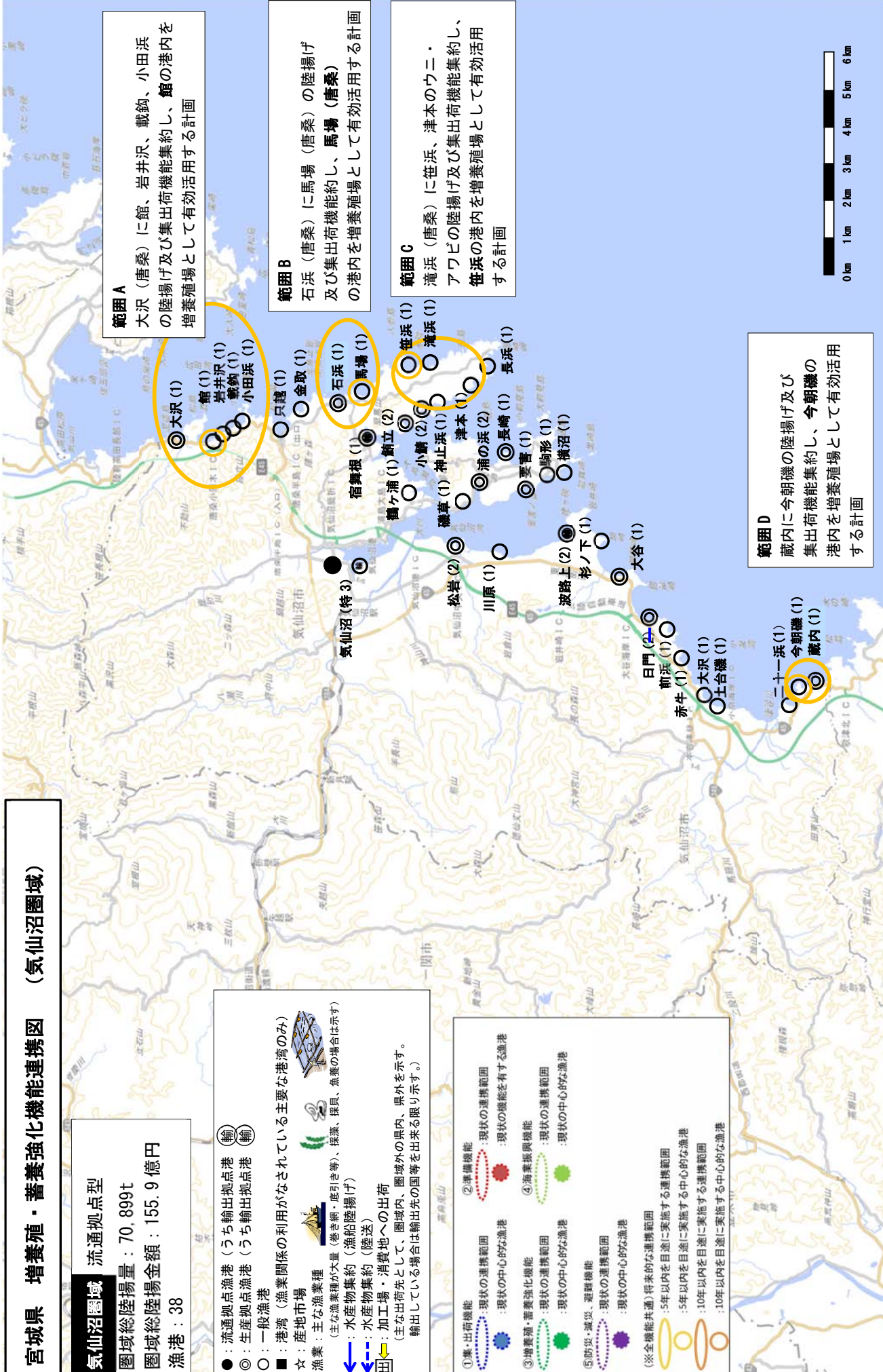
**気仙沼圏域 流通拠点型**  
 圏域総陸揚量：70,899t  
 圏域総陸揚金額：155.9億円  
 漁港：38

●：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港) (輸)  
 ◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港) (輸)  
 ○：一般漁港  
 ■：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)  
 ☆：産地市場  
 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網、底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)  
 ↓：水産物集約 (漁船陸揚げ)  
 ↓：水産物集約 (陸送)  
 出：加工場・消費地への出荷 (主なる荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出発先を示す。)

①集・出荷機能  
 ②準備機能  
 ③増養殖・蓄養強化機能  
 ④漁業振興機能  
 ⑤防災・減災、避難機能

●：現状の中心地的な漁港  
 ●：現状の機能を有する漁港  
 ●：現状の連携範囲  
 ●：現状の連携範囲  
 ●：現状の中心地的な漁港  
 ●：現状の中心地的な漁港  
 ●：現状の中心地的な漁港

(※全機能共通) 将来的な連携範囲  
 ●：5年以内を目途に実施する連携範囲  
 ●：5年以内を目途に実施する中心地的な漁港  
 ●：10年以内を目途に実施する連携範囲  
 ●：10年以内を目途に実施する中心地的な漁港



**範囲A**  
 大沢 (唐桑) に館、岩井沢、載釣、小田浜の陸揚げ及び集出荷機能集約し、館の港内を増養殖場として有効活用する計画

**範囲B**  
 石浜 (唐桑) に馬場 (唐桑) の陸揚げ及び集出荷機能集約し、馬場 (唐桑) の港内を増養殖場として有効活用する計画

**範囲C**  
 滝浜 (唐桑) に笹浜、津本のウニ・アワビの陸揚げ及び集出荷機能集約し、笹浜の港内を増養殖場として有効活用する計画

**範囲D**  
 蔵内に今朝磯の陸揚げ及び集出荷機能集約し、今朝磯の港内を増養殖場として有効活用する計画

